

【書き下ろし】コラム
今週の
視点
論点
News, Trend Analysis and Opinion

全 全国各地でクマの被害が頻発している。テレビや新聞で「クマが庭にいます」「クマがスーパーマーケットに入り込んだ」「クマに襲われてケガをした」といったニュースをよく目にする印象だが、政府の発表によると、クマ出没情報はここ5年間で最多だそうだ。筆者がお世話になっている北陸地方の自治体でもクマが出没して問題となっており、自治体の方が緊急対応となり、打ち合わせが急ぎよ中止になったこともあった。

クマの出没が増加している原因として、大きく三つ挙げられる。一つが、餌不足である。クマの餌となるブナなどの実が昨年、今年と2年連続で不作となっている地域が多いと報告されている。本来の生息域である山中の餌が不足したため、新たな餌を求めて人間の居住地にまで下りてきたわけである。

二つ目が、クマの生息地である山と、人間の居住地の間の緩衝地帯（バッファゾーン）がなくなっている点である。人の管理が行き届いている地域では山林と居住地の間に、樹木を帯状に伐採した緩衝地帯が設けられている。また、きちんと管理された農地も山林と居住地の間の距離を空けるのに役立っている。このような見通しのよい緩衝地帯があると、クマが警戒して居住地側に出てきにくくなり、またクマが間違っただけで居住地に入ってしまうリスクも抑えられる。しかし、高齢化、人口減少、自治体の財政悪化などにより適切な緩衝地帯を維持できない地域が増えており、クマと人間の活動エリアが隣接、時に重複してしまっている。

三つ目が、空き家の増加である。空き家に放置された果樹に実る果物は、

空腹に悩むクマにとって格好の餌となる。先日のニュースでも、空き家の柿の木に登っていたクマの姿が報道されていた。当然空き家には人が住んでいないので、クマは警戒心なく餌を食べることができ、また身を隠すのに適しているとの指摘もあり、空き家対策が急務となっている。

クマ出没への対応策について、農業の観点からできることを考えてみよう。まずは、里山の有効活用である。かつては山林の周辺部は里山として地元住民に共同利用されていた。まきを含む木材の伐採、キノコや木の実の採取などが行われ、それにより人の手が入った管理されたエリアが維持されていた。

しかし、地域の疲弊や農林業の変化によって里山が使われることが減り、

普通の山林に戻ってしまった事例が少なくない。栃木県茂木町では、住民参加型で里山の枯枝、枯葉を収集し、それを原料に公営の堆肥化施設で良質な堆肥を作り、その堆肥を用いて栽培した農産物をブランド化するという資源循環型農業モデルを構築し、消費者から高い評価を得ている。農業者の所得向上にもつながる、新たな形の里山利用といえる。

緩衝地帯の新たな運用方法も欠かさない。地域の人口が減っている中、人手に依存した運用は厳しい。その解決策の一つとして期待されるのがスマート農業である。耕作放棄地に雑草や低木が繁茂してしまつとクマ出没リスクが高まるため、これらの農地をスマート農業を用いて適切かつ効率的に管理しようというアイデアであ

クマ出没から考える野生動物との新たな共存の形



三輪 泰史

日本総合研究所 創発戦略センター
エキスパート

みわ・やすふみ

1979年生まれ、広島県福山市出身。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻修了。2004年に日本総合研究所入社。18年7月から現職。農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員をはじめ、中央省庁などの有識者委員を多数歴任。専門は農業再生による地域活性化、先進農業技術の導入支援、農業ビジネスの海外展開支援など。18年6月から農林漁業成長産業化支援機構社外取締役。

る。

スマート農業による牧草地の管理を例に挙げよう。近年、農業用ドローン、自動運転農機、農業ロボットなどが相次いで実用化されている。これにより、無人もしくは極めて少人数で、牧草地を耕し、牧草の種をまき、必要に応じて農業を散布し、収穫することが可能となっている。牛などを放牧するケースでは収穫作業も不要となり、加えて体の大きな牛を嫌がり、クマが近づきにくいとされている。このような牛の放牧地はカウベルトと呼ばれるが、今後はカメラ、センサー、ドローンなどを組み合わせた警戒システムと、追い払い用のドローンや農業ロボットを備えた「スマートカウベルト」の構築を積極的に進めていくべきである。

本欄は、多胡秀人氏（地域の魅力研究所代表理事）、渡邊准氏（地域経済活性化支援機構代表取締役専務）、井上久男氏（ジャーナリスト）、橋本卓典氏（共同通信社編集委員）、小林美希氏（ジャーナリスト）、三輪泰史氏（日本総合研究所創発戦略センター エクスパート）が交代で執筆します。

INFORMATION



「老後貧乏にならないシンプルルール」

経済コラムニスト 大江 英樹氏

講師略歴 1952年生まれ、兵庫県出身。野村証券で個人の資産運用に従事し、確定拠出年金の投資教育に携わる。定年退職した2012年に独立開業。「サリリーマンが幸せな老後を送れるように支援すること」をモットーに執筆活動や講演、コンサルティングを行う。厚生労働省社会保障審議会企業年金・個人年金部会委員。「定年前」「投資賢者の心理学」など著書多数。

■島根政経懇話会 第314回定例会

日時 11月12日（木） 正午～午後2時
会場 ホテル一畑（松江市千鳥町）

■米子境港政経クラブ 第273回定例会

日時 11月13日（金） 正午～午後2時
会場 米子ワシントンホテルプラザ（米子市明治町）

【会員制】入会などの問い合わせは山陰中央新報政経懇話会事務局（☎0852・32・3477）、またはHPをご覧ください。